

一人一人の成長を促すためのチーム学校での教育相談（第一年次）

—協働的な支援を行うための教育相談コーディネーターの在り方—

福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 赤津 功

1 研究の趣旨

急激な社会の変化に伴い、学校と児童生徒の抱える生徒指導の問題は多様化・複雑化しており、これまでの学校の対応では解決が図れない事案が増えてきている。そのような中、今年度改訂予定の生徒指導提要（案）において、教育相談コーディネーターが教育相談活動のチームの要として位置付けられ、その役割の重要性について明記された。また、教育相談が課題解決的教育相談^{※1}だけではなく、すべての児童生徒を対象にした発達支持的教育相談^{※2}、課題予防的教育相談^{※3}の重要性についても強調された。現在、教育相談コーディネーターを校務分掌に位置付け、組織的な教育相談の充実を図る学校が増えてきているが、課題解決的教育相談が中心で、すべての児童生徒を対象にした教育相談の提供が十分になされていない傾向がある。そこで、本研究においては、教育相談コーディネーターが中心となって、すべての児童生徒を対象にした発達支持的教育相談、課題予防的教育相談の重要性を学校全体へ涵養させ、協働的な教育相談の在り方を探ることとした。

※1 困難な状況において適応苦戦している児童生徒、あるいは困難な状況で適応上の課題のある児童生徒が対象である。こうした児童生徒に対して [中略] 長期にわたる手厚い支援によって課題の解決を支援する。

※2 様々な資質や能力の積極的な獲得を支援する教育相談である。発達支持的教育相談は、適応の基盤づくり、問題行動の未然防止に繋がる。

※3 大きく二つに分類できる。第一は、すべての児童生徒を対象としたある特定の問題や課題の未然防止に行われる教育相談である。第二は、ある問題や課題の兆候が見られる特定の児童生徒を対象とした教育相談である。

2 研究の概要

(1) 研究の目的

- 組織的な教育相談を実践するための教育相談コーディネーターの機能の提案
- 教育相談コーディネーターを軸としたエビデンスに基づいた協働的な支援の仕方の探求

(2) 研究の内容・方法

- ① 教育相談コーディネーターを中心とした組織的な教育相談体制の構築と実践
 - 研究協力校のこれまでの実践や強みを生かした教育相談体制の立案
 - 協働的に学校の課題解決を図る教育相談の提案と校内研修の実践
- ② 組織的な教育相談の効果の検証
 - 研究協力校児童生徒の実態把握（Hyper-QU）
 - 研究協力校教職員へのアンケート・インタビュー

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 教育相談コーディネーターを軸とした基本的な教育相談体制が確立された。限られた時間の中で、児童生徒の情報の交換・共有がなされている。
- 教育相談コーディネーターが中心となって、Hyper-QU 結果の分析、支援策について検討する校内研修会が実施され、教職員の力量形成や力量向上のきっかけとなった。
- 教育相談コーディネーターが中心となって、エビデンスに基づいた学校の課題解決を図るための協働的な教育相談について全職員で検討し、教育相談の年間プログラム作成に着手した。
- 1人1台端末を活用した児童生徒の心の交流の場を設定し、継続した成長支援を行えるよう検討している。

(2) 今後の課題

- 教育相談コーディネーターの業務が多岐に渡っており、一人で行うには過重となっている。生徒指導主事等、他の教職員との役割分担・協働の在り方について探る。